

2023年5月22日

各位

株式会社北洋銀行

## 環境大善株式会社様の『SDGsコンサルティング』のご利用について

北洋銀行(取締役頭取 安田 光春)は、お客さまのSDGs経営への取り組みを支援するため「SDGsコンサルティング」を提供しています。今般、環境大善株式会社様(北海道北見市、代表取締役 窪之内 誠様)が本サポートを利用し『サステナビリティ経営方針』を策定しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

近年、社会的にSDGsへの取り組みに対する関心が高まっており、企業イメージの向上や新たな事業機会の創出につながることから、多くの企業がSDGsへの取り組みを推進しています。

当行は今後も、北海道の地域金融機関として道内のSDGs促進・普及に貢献するために、お客さまのSDGsへの取り組みを支援してまいります。

記

### 会社概要

会社名	環境大善株式会社
所在地	北海道北見市端野町三区438番地7
代表者	代表取締役 窪之内 誠
業種	製造業

※サステナビリティ経営方針の詳細は別紙をご参照ください。

以上



北洋銀行グループは、2018年12月「北洋 SDGs宣言」を表明し、地域の持続的成長支援と社会的課題の解決に取り組んでおります。なお、SDGsに関連するプレスリリースには、該当するSDGsのアイコンを明示しております。  
【SDGs】2015年の国連サミットで採択された、持続可能な世界を実現するための2030年までの国際目標。17のゴールと169のターゲットで構成される。

# 環境大善株式会社

## サステナビリティ経営方針

「未来の為に今日を変える。環境、地域、知的財産の3つの視点から、持続可能な社会を築き上げます」

当社は企業活動を通じて、人と地球に優しい社会を、全てのステークホルダーと共に創っていきたくと考えております。

私たちは、地域社会と協力して共に歩み、新しい社会を造り、知的財産権を守ることで、未来に向けた持続可能な取り組みを実行していきます。

### ビジョン

「想いを発酵させ、人も地球も健康にする」

### 経営理念

### 発酵経営



地球の健康を見つめる

環境大善

#### 事業に影響を与える環境変化

##### 環境

- 脱炭素社会に向けた社会変化
- 循環経済の加速
- 自然資本の保護に対する規制強化

##### 社会

- 多様な価値観やライフスタイルの変化
- 働き方改革・健康経営・労働安全の意識向上
- 地方創生の貢献に対する重要度の高まり

##### 経済・技術

- CSR調達の拡大
- リスクマネジメントの重要性の高まり
- DXの進展

#### 重要課題(マテリアリティ)

#### 取組内容

#### 主なステークホルダー

1

持続可能な地域社会づくりへの貢献

- ① 地域への教育支援
- ② 地域企業との連携

お客様  
地域社会

2

アップサイクルによる環境負荷の低減

- ① サーキュラーエコノミーの推進
- ② CO<sub>2</sub>排出量の削減
- ③ NOx(窒素酸化物)の削減
- ④ プラスチック消費量の削減

地球環境

3

多様性を取り入れた発酵経営の推進

- ① ダイバーシティ(多様性)の推進

従業員

4

パートナーシップの構築によるアップサイクルの拡大

- ① 地域産業とのパートナーシップ構築

地域社会

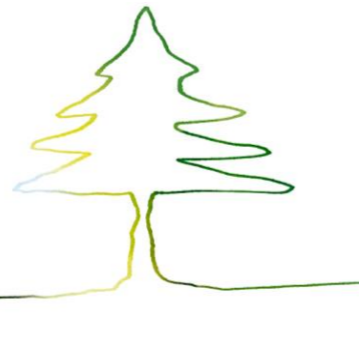
5

サステナビリティ経営の推進

- ① サステナビリティ経営体制の構築

地域社会

# サステナビリティ経営への取り組み



環境大善株式会社

当社は国連が提唱する「持続可能な開発目標（SDGs）」に賛同し、持続可能な社会の実現に向けた積極的な取り組みを行ってまいります。

また、環境問題、労働負荷や人権問題など企業を取り巻く社会課題のうち、当社が将来にわたって事業活動を継続するために重要な課題をマテリアリティと定め、重点テーマを設定しております。重点テーマの取り組みを通じて、経営のリスクを回避し、イノベーション創出の機会を捉えてまいります。

## SDGs達成とマテリアリティへの取り組み

### 環境

#### 「今日の実践が未来を変える 共に地球環境を守りましょう」

私たち環境大善は、社員一人ひとりが環境配慮を意識した取り組みを実践していきます。当社が行っている『アップサイクル型循環システム』により、未利用バイオマスを原料とした製品の製造をおこない、ユーザーの皆様も自動的に地球の環境負荷に貢献できる製品を今後も探究していきます。

#### 【SDGs達成に向けた具体的な取り組み】

- ・サーキュラー・エコノミーによる製品製造
- ・CO<sub>2</sub>排出量の削減
- ・LED導入等の省エネ活動への取り組み
- ・NOx排出量の削減
- ・社用車の環境配慮型車両の利用
- ・プラスチック消費量の削減  
(ボトル→パウチへの変更、アテンションシールの廃止、ラベルレス商品の拡充)



#### 【マテリアリティに基づく取組内容とKPI】

重要課題	取組内容	目標・KPI
1 アップサイクルによる地球環境負荷の低減	サーキュラーエコノミーの推進	2026年度までに牛尿処理量を2,000tにする
	CO <sub>2</sub> 排出量の削減	2025年度までにCO <sub>2</sub> 排出量を可視化する
	NOx(窒素酸化物)の削減	2025年度までに製造過程における窒素酸化物の排出量を可視化する
	プラスチック消費量の削減	2026年度までに詰め替え用製品容器のプラスチック使用量を30%削減する 容器におけるラベルレス製品の増加とアテンションシールを廃止する

### 社会・地域

#### 「地域と手を取り合い、未来に繋がる社会を築き上げます」

私たちは、ダイバーシティを推進し、チームビルディングを行う事で、職場の環境整備を行なっていきます。そして我々が提唱する発酵経営を通じイノベーションを起こす事で、社会課題の解決に向け挑戦を続けていきます。また、地域社会との連携を重視し、地域に貢献することを使命としています。そのために、地元の優秀な人材を積極的に採用し、地域の産業振興に貢献すると同時に、地域企業のアトツギを応援する事にも取り組んでおります。私たちは、地域社会と共に歩み、持続可能な社会を創り上げていくことを目指しています。

#### 【SDGs達成に向けた具体的な取り組み】

- ・産休、育休、介護休暇制度の導入
- ・きたみワーク・ライフ・バランス第3ステージの認定取得
- ・育児休暇取得100%
- ・地元高校生の社会見学受入
- ・チームビルディング研修に向けた取り組み
- ・「牛尿バイオ活性液」の地域資源への登録
- ・定期健康診断実施
- ・スポーツや地域イベントへの参加
- ・労務災害の防止（パワードスーツ導入）
- ・社会福祉法人との連携
- ・地元人材の積極的採用
- ・地域内アトツギの応援（メンターの他、コンソーシアムをつくりワークショップ開催も検討中）



#### 【マテリアリティに基づく取組内容とKPI】

重要課題	取組内容	目標・KPI
1 持続可能な地域社会づくりへの貢献	地域への教育支援	地元・北海道内の学生に対して、セミナーや講義、研修を年1回以上行う
	地域企業との連携	地域企業と連携し、アトツギ支援を目的としたワークショップを年1回以上開催する 社会福祉法人との連携をより強固にする
2 多様性を取り入れた発酵経営の推進	ダイバーシティ(多様性)の推進	2024年度までに定年を65歳とする 男性を含む育児休暇取得率100%を維持する

### 経済・ガバナンス

#### 「創造的な未来を、知的財産権で守ります」

私たちは商標・特許などの知的財産化に力を入れております。研究開発と技術向上に努め、安全でより品質の高い商品提供を行ってまいります。また、社内のコンプライアンス体制整備等により営業秘密情報の流出及び他社情報の不正使用の防止の徹底を行ってまいります。

#### 【SDGs達成に向けた具体的な取り組み】

- ・商標登録及び特許取得
- ・コンプライアンス体制の整備
- ・研究開発及び品質管理の徹底
- ・リスクマネジメントにおける研修体制の構築（インピットやその他研修の定期的な実施）



#### 【マテリアリティに基づく取組内容とKPI】

重要課題	取組内容	目標・KPI
1 パートナーシップ構築によるアップサイクルの拡大	地域産業とのパートナーシップ構築	研究機関や民間企業と連携し商品開発をする
2 サステナビリティ経営の推進	サステナビリティ経営体制の構築	ESG経営体制を確立し、全従業員でサステナビリティの取組状況を共有する

